

2024年度 神戸市政策会議 概要

開催日時	2024年8月28日（水）9時30分～10時00分
出席者	市長、副市長、市長室長、企画調整局長、企画調整局副局長、企画調整局政策課長、行財政局長、行財政局副局長、建築住宅局長、建築住宅局副局長、建築住宅局建築指導部部長（空家空地指導担当）、建築住宅局政策課長
議題	空き家空き地活用・対策による豊かな住みづくりの推進
提案概要	<p>○2023年の住宅土地統計調査（全国版）によると、空き家は一貫して増加が続き、空家数は900万戸、空家率も13.8%と過去最高であり、空き家数は1993年から2023年までの30年間で約2倍となっている。居住目的がない空き家は385万戸と、2018年（349万戸）と比べ、37万戸の増加となっており、総住宅数に占める割合は5.9%となっている。</p> <p>○今後も空き家の増加が予想されるため、行政だけでなく、地域住民や民間事業者等が一丸となって空き家対策に取り組む必要がある。</p> <p>○空き家・空き地活用や対策及び予防に関する施策について、「ふせぐ」「おこす」「つなぐ」「つかう」「なおす・こわす」に分類し、一貫した取り組みを行っている。</p> <p>○それぞれの分類に応じた施策について、以下のとおり提案。</p> <p><ふせぐ></p> <ul style="list-style-type: none">・使えない空き家の発生抑制のため、市が補助をした空き家・中古物件活用事例を公開・空き家の活用や中古住宅の取得に興味のある市民や建築家のネットワークを形成し、市民間で空き家の活用に関する相談や情報交換、建築家の紹介がし合えるような土壌を育て、ひいては空き家活用の機運醸成につなげる <p><おこす、つなぐ></p> <ul style="list-style-type: none">・使える空き家をより効果的な市場流通につなげるため、これまでは点で行ってきた空き家対策を面で実施できるよう、施策検討に向けた調査の実施を検討

	<p><つかう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年夫婦・子育て世帯の住宅ニーズが高いエリアを中心に、修繕が高額なため活用しきれっていない市営住宅の空き住戸を子育て世帯向けの賃貸住宅として供給 ・居住支援法人等に市営住宅の空き附帯施設をサブリースし、住宅確保要配慮者の入居支援・生活支援を実施 ・断熱性能の高い住宅ストックを形成する施策の検討 <p><なおす・こわす></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者間での空き家問題解決（越境竹木の切取り、妨害予防請求、妨害排除請求、財産管理制度の申立等）を目指す地域住民に対する支援の検討 ・活用等の見通しが立たない老朽空き家について、周辺への影響が深刻化する前に自主解体により早期に解消するよう、引き続き促していく。
<p>会議結果 (主な意見 等を含む)</p>	<p>全体の方向性については了。現行施策の拡充および、長期的な視点での空き家対策について、局からの提案をもとに議論を行った。</p> <p>○今後の検討にあたっては、以下の点に留意し、次年度予算の編成に向けて継続して議論を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は自助、共助の取組みも重要となってくる。 ・住まいの断熱化推進の枠組みを引き続き検討していく。 ・空き家問題解決のための地域への支援は、適切な支援のあり方について検討していく。 ・都市のスポンジ化リスクに対し、各局連携の上、引き続き対策を検討していく。